



知事から一言

山梨県知事 横内 正明

私は、県民の皆さんとの公約として、山梨を変えるための基本理念や7つの宣言、具体的な127項目の施策などで構成する政策提言を掲げました。

その一つに「県民に関かれ、県民とともに創る県政の推進」があります。

これを実現していくためには、県民の皆さんからの情報やご意見に常に耳を傾け、県政に反映していくことが大切であると考えています。

この度、県内各地で活躍する皆さんのところに私が自ら出向き、ひざを交えてシナリオのない対話を行う「県政ひざづめ談議」を開始しました。

第1回は、甲州市を訪問し、本県ワイン産業の歴史を物語るワイン資料館において、ワイン醸

造業者やブドウ栽培農家の方々と活発な意見交換を行い、皆さんのワインにける熱い思いに大いに啓発されました。

また、第2回となる甲斐市におきましては、子どもたちの元気な声が響く中、子育て中のお母さんや子育て支援に携わる方々から、ご自身の体験を交えたお話しをお聞きし、小さなお子さんを持つご夫婦が安心して子育てできる山梨にしていきたいと改めて感じました。

今後とも、この「県政ひざづめ談議」により県内各地に出向き、その地域の特色や課題に合ったテーマで関係者の皆さんと意見交換を行い、県民とともに創る県政の推進に努めていきたいと考えています。

(特集2「『県政ひざづめ談議』をスタートしました!!」は8ページ)



甲信国境に息づく要衝の駅

「若葉する驛のまへの谿深し雪のこのれる山々に向ふ」
 駅前にあるこの歌碑は、諏訪に育ったアララギ派の歌人、島木赤彦が小淵沢を訪れた際の歌です。このように麗しくも厳しい自然に抱かれた小淵沢は、古くから甲府と諏訪を結ぶ交通の要衝であり、特に戦国時代には国境の要として、重要な役割を担った地域でした。

こうした小淵沢の町に、蒸気機関車が姿を見せたのは明治三十七年のことです。中央線の開通により、歩いて十時間はかかったという甲府～小淵沢間は約二時間で結ばれるようになりました。そして時は下り昭和十年、小海線が開通すると、小淵沢駅は中央線と小海線が乗り入れる鉄道の要衝として、甲府と佐久を結ぶ新たな役割を担うこととなります。また、小淵沢駅前には商店街としても栄え、峡北地域において一つの商業圏をもつ町として発展していきました。

現在は高原の行楽地として発展し続ける小淵沢。小淵沢駅は小海線を利用する多くの乗降客と合わせ、大勢の観光客でにぎわいます。最近では、日本の上位三つの高峰(富士山・北岳・奥穂高岳)が一望できる「三峰の丘」や武田信玄が信濃攻略へと駆け抜けた「棒道」などへと、駅を起点とした二時間程の散策を楽しむ人の姿も多く見られます。

折しも今年は大河ドラマ「風林火山」の年。行楽地としてだけでなく、歴史が息づく要衝の地として訪れてみてはいかがでしょうか。

甲斐往来

第十三回 小淵沢駅

ふれあい

やまなし県政だより [特集号]

vol.13
目次

2	シリーズ山梨の駅 甲斐往来 「第13回 小淵沢駅」	12	富士山の世界文化遺産 登録を推進	18	多文化共生社会の形成に向けて
3	知事から一言	14	山梨の旧道を訪ねて 「棒道 / 白井沢から県境付近まで」	22	県政フラッシュ
4	特集1 平成19年度予算	16	甲斐のひと、インタビュー 「深澤直人さん」		地産地消 おいしい山梨再発見 「中玉トマト・華雅」
8	特集2 「県政ひざづめ談議」を スタートしました!!				